

平成20年3月期第1四半期決算説明会Q&A

【計測器事業に関するQ&A】

Q1: 受注が伸びてきた背景について、地域別、製品別の内訳を聞きたい。

A: 地域別で見ると、前年同期と比較し、全地域でバランスよく伸びている。製品別で見ると、足元の状況としては、第3世代(3G)携帯端末の製造用計測器が国内、中国で伸びている。3G携帯端末は、今後、世界各地に普及する見込みであり、世界の製造工場である中国は、これまでのEMS(製造受託)に加えて、欧州メーカーにOEM供給する製品もかなり増えてきており、製造用計測器は今後も一定の売上規模を期待している。
また、光ファイバー敷設時の工事用フィールドテストが、これまでの日本国内から、米州を中心とした海外で売上が拡大している。

Q2: サービス・アシュアランス分野の受注規模の内容と、損益の改善幅を教えてください。

A: 現在の受注は、今期計画の前期比20%の伸びを十分達成可能なレベルである。赤字幅は、現時点ではロスは出ているが半減程度まで減少しており、このまま進捗すれば下期のブレイクイーブンが可能なレベルである。

Q3: 今後の成長を期待している汎用計測分野は、3G開発用計測器と同程度の利益率を期待できるのか。

A: この分野は、競合関係に厳しい面はあるが、ハードウェアをそのまま提供するのではなく、アプリケーションソフトをあわせて供給することにより付加価値を上げ、単なる価格競争に陥ることなく利益を確保したい。
例えば、携帯電話基地局用に開発したデジタル信号発生器は、最近ではデジタルTV放送用の信号源としての機能をもたせたソフトウェアを開発し、供給している。

【中期経営計画に関するQ&A】

Q4: 中期経営計画の「2009年3月期の営業利益目標125億円」を達成するには、今期見通しから50億円程度の増益を達成する必要がある。原価率改善1%で見込める増益幅は10億円程度であり、残りはどのように生み出す計画なのか聞きたい。

A: NGN関連分野の売上拡大や、アプリケーションの拡張による汎用計測器の市場拡大などにより計測器事業の成長を図ることが、計画実現の最大の要点である。サブセグメントとしては、損失を計上しているサービス・アシュアランス分野の収益改善を達成していく。

【その他のQ&A】

Q5: 地域別の通期見通しをみると、米州は前期並みを見込んでいる。現在、米国キャリアの設備投資が増加しているなか、アンリツには恩恵はないのか？

A: 前期は、米国キャリアから携帯基地局建設保守用のハンドヘルド計測器の特別な大口受注があった。当期は、同様の大口受注を見込んでいないが堅調に推移しており、前期並みの売上を達成する見込みである。

Q6: 研究開発費の水準の来期見通しはどうか？

A: 研究開発費は、今後も費用対効果を考慮し慎重に投資する方針だが、金額として来期に急減することはない。
3Gの次のLTEなど、次世代通信に向けた世界のリーディングカンパニーの研究開発に対して、当社は今後もパートナーシップの関係は維持する。これにより先端的な技術を蓄積、付加価値の高い製品を生み出し、幅広い顧客へ販売していく、という戦略は今後も手を緩めない。